就学児サポート調査票
個別サポート加算Ⅰ（放課後等デイサービス）　児童氏名

No.4

調査実施上の留意点	・調査対象の児童の状態は、適切な支援や環境が整っていない状況（例：保護者や慣れている支援者がいない状況、初めての場所等）を想定して判断する。 ・「できる時とできない時がある場合」は、「できない場合」に基づき判断する。

					具体的な状況を記入 「支援不要」の場合は記入不要
①コミュニケーション	他者に対する自分の意志の伝達に、どの程度の支援を必要としているか				
	いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある	C　常に支援が必要	
	具体例等		・慣れていない場面等では、口頭でのコミュニケーションが難しく配慮を必要とする ・コミュニケーションツール（絵カード、ICTの活用、PECS等）を用いるとコミュニケーションができる ・手話や筆談、点字等を用いている ・特定の人（保護者など）しか理解できないサインで意思を表現する ・特定の人（保護者など）としかコミュニケーションがとれない ・吃音がある等	・コミュニケーションツール等を用いても、自分の意思の伝達ができない。 ・重度の障がい等のため、自分の意思の伝達ができているかどうか判断ができない（オウム返しで返答し、意味が理解できていない場合等） ・行動でのみ自分の意思を伝えられる。（例：冷蔵庫の前に行く、他者の手を引いておもちゃを取らせる等） ・日常生活上パターン化された内容のみ、自分の意思を伝えられる。（例：ご飯と言う、おもちゃのみ指さしする等）	
②説明の理解	他者からの説明の理解に、どの程度の支援を必要としているか				具体的な状況
	いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある	C　常に支援が必要	
	具体例等		・簡単な口頭での説明であっても理解できないことが多く、説明に応じた行動ができないことが多い ・１つのことはできるが、同時に２つ以上のことを指示されると行動が困難になる ・コミュニケーションツールを用意することで、理解が促される ・ジェスチャーで補足すると理解が促進する等	・簡単な口頭での説明をしても、うなづきや返事などが見られず、理解できていると考えられない、又は、理解しているのかを判断ができない ・日常生活の中で、パターン化された特定の行為（座る、食べる等）のみ理解できる等	
③大声・奇声を出す	日常生活において行動上、どの程度の支援（配慮の度合や頻度等）を必要としているか。				具体的な状況
	いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	C　常に支援が必要 （通常または習慣化している　例：週１回程度以上） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	
	具体例等		・時間帯と場所を選ばず周囲が驚いたり、他者が迷惑となるような大声や奇声を出す ・物などを使って周囲に不快な音を立てる等		
④異食行動	日常生活における行動上の危険性で、どの程度の支援を必要としているか				具体的な状況
	いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※例：飲み込みはしないが口に含むことがある。）	C　常に支援が必要 （※例：物があると口に含み、飲み込んでしまう） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	
	具体例等		・食べられないもの（例：石や砂、玩具類、腐った食べ物、地面に落ちて明らかに汚れている食べ物、酒類、洗剤類など）を口に入れたり、飲み込んだりする異食行動がある ・異食行動を未然に防止するため、異食しそうなものを周囲に置かないなど配慮が必要な場合等		
⑤多動・行動停止	日常生活において行動上、どの程度の支援（配慮の度合や頻度等）を必要としているか				具体的な状況
	いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	C　常に支援が必要 （通常または習慣化している　例：週１回程度以上） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	
	具体例等		・特定の物や人（対象が明確でない場合も含む。）に対する興味関心が強く、思うとおりにならないと多動になったり、その対象にこだわって動かなくなってしまう ○多動 ・周囲と協調できず、絶えず動いてしまう。またはマイペースに周囲と無関係に動いてしまう ・常時走り回る、１箇所に留まることが難しい ・絶えず喋っている　・体の一部を常時動かしている等 ○行動停止 ・本人の意思とは関係なく、次の行動に移ることが難しい等		

⑥不安定な行動		日常生活において行動上、どの程度の支援（配慮の度合や頻度等）を必要としているか			具体的な状況を記入 「支援不要」の場合は記入不要
	いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	C　常に支援が必要 （通常または習慣化している　例：週１回程度以上） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	
	具体例等		・予定や手続き、日頃から慣れている支援者や状況等が変わることが受け入れられず、突然大声を出したり、興奮する等のパニック状態になる等 ・不安、恐怖、焦燥などにかられて衝動的な行動がある、又は行動が停止する等		
⑦自らを傷つける行為		日常生活における行動上の危険性で、どの程度の支援を必要としているか。			
	いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※該当行為がある）	C　常に支援が必要 （※常時見守りや個別対応などの配慮が必要な状態） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	具体的な状況
	具体例等		・自分の体を叩いたり、頭を床に打ち付けたりなど、自分の体を傷つける行為がある ・傷口を触ったり、ほじったりして傷が治らない ・衣服を破ることがある等		
⑧他人を傷つける行為		日常生活における行動上の危険性で、どの程度の支援を必要としているか。			具体的な状況
	いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※該当行為がある）	C　常に支援が必要 （※常時見守りや個別対応などの配慮が必要な状態） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	
	具体例		・他人を叩く、髪を引っ張る、蹴る、押す等他人を傷つける行為がある ・物を壊したり、投げたりする等、他人を傷つける危険性がある ・暴言（バカ、死ね等）、相手を侮辱したり心理的に相手を傷つける行為がある等		
⑨不適切な行為		日常生活において行動上、どの程度の支援（配慮の度合や頻度等）を必要としているか			具体的な状況
	いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	C　常に支援が必要 （通常または習慣化している　例：週１回程度以上） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	
	具体例等		・興味や関心が優先したり、適切な意思表示ができなかったり、判断能力が不十分だったりする等により、不適切な行為がある ・見知らぬ人に抱きつく、膝の上に座るなど ・他人に急に接近する　・盗む ・感情のコントロールに困難があり、些細な出来事で直ぐにかんしゃくをおこしたり、周囲の人とトラブルになりやすい ・SNSなどで不適切な内容を発信したり、見知らぬ誰かと通信したりする ・自慰行為がある　・過度に人や物の臭いを嗅ぐ行為がある ・不適切な場所で放便・放尿がある ・意思が伝えられず、友達を叩く、物を投げる行為で表現する等		
⑩突発的な行動		日常生活における行動上の危険性で、どの程度の支援を必要としているか			具体的な状況
	いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	C　常に支援が必要 （通常または習慣化している　例：週１回程度以上） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	
	具体例		・関心が強い物や人（対象が明確でない場合も含む。）を見つけたら、突然気になる方へ走っていってしまう等、突発的な行動がある ・危険の認識が弱く、道路への飛び出しや自分の身体能力を超えた高さから飛び降りる等の行為がある		
⑪過食・反すう等		日常生活において行動上、どの程度の支援（配慮の度合や頻度等）を必要としているか			具体的な状況
	いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	C　常に支援が必要 （通常または習慣化している　例：週１回程度以上） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	
	具体例等		・過食や過飲、拒食、反すう等、食に関する行動上の問題がある ・際限なく水を飲み続ける　・嘔吐を繰り返す ・極度な偏食（例：白米だけしか食べない等）あり、補助食品で補う等で配慮している ・咀嚼（噛む行為）・嚥下（飲み込む行為）の課題があり配慮が必要（例：きざみ、ミキサー食など）		
⑫てんかん		日常生活において行動上、どの程度の支援（配慮の度合や頻度等）を必要としているか			具体的な状況
	いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある	C　常に支援が必要	
	具体例等		・服薬対応までしていないが、てんかんの経過観察を行っている。	・てんかんの診断がある（薬で発作を予防している場合も含む） ・発熱時に抗けいれん座薬等で対応をしている	

⑬そうつ状態	いずれかに○→	日常生活において行動上、どの程度の支援（配慮の度合や頻度等）を必要としているか			具体的な状況を記入 「支援不要」の場合は記入不要
		A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	C　常に支援が必要 （通常または習慣化している　例：週１回程度以上） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	
	具体例等		・うつ状態　気分が憂鬱で悲観的になったり、時には抑鬱気分により思考力が低下し、考えがまとまらないため、日常生活に支障をきたす ・前後の脈絡なく急に泣いたり、笑ったりする ・自殺企図がある　・気分安定剤などの薬物を使用している ・睡眠障害に関する診断や治療をしている ・そう状態　気分の高揚により、様々なことを思いつき、次々と行動に移すが、注意力が散漫であるため、その結果は失敗に終わること多く、社会生活に影響を及ぼす（気分の高揚　・社交性の増大　・多動・多弁　・過度な興奮状態　・怒りやすい等）		
⑭反復的行動	いずれかに○→	日常生活において行動上、どの程度の支援（配慮の度合や頻度等）を必要としているか			具体的な状況
		A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	C　常に支援が必要 （通常または習慣化している　例：週１回程度以上） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	
	具体例		・ある考えに固執し、特定の行為を反復したり、儀式的な行為にとらわれる等により、動作に時間がかかり日常生活に支障が生じる ・くるくる回るものやキラキラするものに集中し、動けなくなることがある ・回る物や紐などを常に持ち、それらを常に動かしている ・上半身を前後に揺らす、ジャンプを繰り返すなどがある ・日常生活の中で、決まったルーティン（例：服を着る順番が決まっているなど）を行わないと次の行動にうつれない ・日常生活の中で、決まった道以外を通るとパニックになる等		
⑮対人面の不安緊張・集団への不適応	いずれかに○→	日常生活において行動上、どの程度の支援（配慮の度合や頻度等）を必要としているか			具体的な状況
		A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	C　常に支援が必要 （通常または習慣化している　例：週１回程度以上） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	
	具体例等		・人との関係で緊張状態になり、集団生活の場面に参加できなかったり、参加しても行動に移せない ・一定期間学校へ行けなかったり、事業所の中に入れなかったり、家に引きこもっている状態 ・緊張状態が強く、身体症状が出ている（チックや緘黙など） ・感覚過敏により日常生活への適応に困難があるため配慮が必要。(例：温度、食感、音が過剰に聞こえる、つま先立ちで歩く、光や色を過剰に感じる、皮膚感覚が過敏で同じ服しか着ることができないなど)		
⑯読み書き	いずれかに○→	文字を介したコミュニケーション、また、文字を読むこと、書くことについて支援が必要かどうか			具体的な状況
		A　支援不要	B　支援が必要な場合がある	C　常に支援が必要	
	具体例		・一部理解はできるが、見守りや口頭で補足の説明が必要。 ・書くことはできないが、パソコン等の代用手段を使用すればできる場合。	・文字では理解できず、コミュニケーションツールを使用することで理解できる。 ・文字に興味を示さない。・学習障害の診断がある。	